

●6月24日(水) 曇のち小雨 移動(猿払～紋別～滝上)

○天気が悪い。寒い。箱根から異動した懐かしい人に会いに紋別・滝上へ。 風邪が治らない!

・夜中にトイレへ行った時には満点の星空で、晴天の夜明けを期待したのに、4時過ぎ、明るくなったので目が覚めたらどんよりと曇っている。

外気温は8℃、あまりにも寒いので布団に潜り込んだ。6時に起きて周りを見たらけっこう車が止まっている。神戸、横浜、札幌などなど、それでもせいぜい10台くらいだ。のんびり起きて朝食を済ませ8時過ぎ出発の準備が出来た。昨日風呂を我慢したのが良かったのか、喉の痛みは大分良くなったような気がする。



・出発前に道の駅「さるふつ公園」の周りにある猿払公園を回ってみた。江戸末期から明治の初めにかけて北海道で活躍し北海道という地名の名付け親と云われる松浦武四郎の碑や、昭和14年12月に荒れ狂う吹雪の中で遭難し700名以上が亡くなった旧ソ連の貨客船・インディギルカ号の遭難者慰霊碑などを見て回った。



松浦武四郎の碑



インディギルカ号の遭難者慰霊碑

・オホーツク海沿いの国道238号線・オホーツクラインをのんびりと南下。しばらく走ると「クッチャロ湖」の標識が目に入った。クッチャロ湖は日本とロシアを渡る水鳥たちの重要な中継地で、約290種の野鳥が記録され、特に春と秋の渡りの季節に、数千羽のコハクチョウと数万羽のカモ類が観察できることで有名で、日本で3番目にラムサール条約に登録された湖だ。迷わず右折してクッチャロ湖をめざした。ちょうど渡りの季節を外れているので、鳥も人もいない静かな湖だった。



クッチャロ湖

・クッチャロ湖の海側には「ベニヤ原生花園」が広がり、ここにも寄ってみた。木道の散策路があったので回ってみようかと思ったが、管理棟で「熊の目撃情報があったから遠くへは行かないように」と注意されたので、ちょっと歩いただけで引き返した。



エゾオオヤマハコベ

・オホーツクラインを更に南下し、カムイ岬公園を通り枝幸町に入った。いつもは素通りするところだが、今回は国道を離れ枝幸の街に入ってみた。甥っ子が数年間生活していたのでどんなところかと思ったが、案外大きな街で、これなら生活できるなと認識した。

・枝幸からちょっと南にある道の駅「マリーンアイランド岡島」に寄った。ちょうど昼時なので「海の幸ラーメン」を食べた。1000円と、ちょっと値がはったがカニ、ホタテ、エビが入っていてなかなか豪華なラーメンだ。「カニの枝幸」が売りの地だが、2月から5月のカニのシーズン以外はカニが無くて、カニ料理は用意していないとのことだ。

・12時に道の駅を出てはまなす街道をのんびりと紋別へ向け南下を続けた。

・オイオイ、ガソリンが無い！ 紋別までまだ100kmもあるぞ。そう思うと針がどんどん下がってゆくように見える。雄武の街でシェルのスタンドを見つけ飛び込んでセーフ。ただガソリン代の他に消費税を別に取られた。こんなの初めてだ。結局160円/リットルにもなり、頭にきて風邪の熱が一気に高くなった。ただガソリン満タンになったので気分的に余裕が出た。

・紋別の街に入る前に「オムサロ原生花園」という標識があったので、ここも寄ってみたが、残念ながらハマナスが咲いている以外に花のない寂しい草原だった。



こんなところにも熊が出るのだ！

エゾオオヤマハコベという花を初めて見た。



カムイ岬公園



・紋別はかなり大きくて賑やかな街だった。

紋別で体温計と葛根湯を購入し、今日の宿泊予定の道の駅「香りの里たきのうえ」へ向かった。何も無い林の中に続く直線の国道 273 号・渚滑国道をひたすら走る。こんな寂しい先に本当に道の駅があるのだろうかと心配しながら走った。 30km 先の滝上町・確かに立派な道の駅があった！ 滝上はそんなに大きくない寂しい街なのに、なんでこんなに立派な道の駅があるんだ！？

・今年環境省箱根支署から、ここ紋別の林野庁西紋別支署に転勤してきた M 嬢に会うために、西紋別支署を探した。滝上町役場のそばに支署があった。それはそれは立派な建物だ。さすが森林王国を管理する部署だけある。残念ながら M 嬢は森林巡視に出かけていて留守だった。あすの朝出直すことにして道の駅に戻った。



・真向かいのホテル「溪流」で久しぶりで温泉にゆっくり入り、夕食後早々と寝た。風邪を治さないと。気温 12.0℃。広い駐車場に車 3 台と大型トラック 4 台止まっているだけ。空はどんよりとして実に寂しい。



滝上町は「芝桜の街」として有名で、春・芝桜の季節には大勢の観光客で賑わうらしく、立派な道の駅が存在しているらしい。ということがわかった。



滝上町ホームページから転載